

株主通信

第55期 中間報告書 平成28年4月1日 ▶ 平成28年9月30日



ICT社会の発展を価値ある「サービス」と「人」で支える
旭情報サービス株式会社

ICT社会の発展を価値ある「サービス」と「人」で支える

旭情報サービス株式会社

創業の精神



約束はきちっと果たす
決して迷惑はかけない
礼儀を重んじ
感謝の心を失わず
謙虚で素直に周囲の言葉を受けとめる

◀ 社是

企業理念

旭情報サービスは
生き生きとした人づくりに基づき
創意工夫とたゆまぬサービス改善により
情報社会の健全な発展に貢献します。



株主の皆さまには、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当上半期におけるわが国経済は、企業業績に停滞感がみられるものの雇用・所得の改善傾向は継続しており、緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、中国をはじめ新興国経済の景気減速や英国のEU離脱問題、為替市場の不安定な動きにより、先行きは不透明な状況にあります。

情報サービス産業におきましては、クラウドサービスやセキュリティ対策等の需要を軸に大企業を中心としたIT投資は引き続き堅調に推移しておりますが、企業のコスト削減姿勢は変わらず、依然として価格面では抑制傾向にあります。

このような情勢の下、当社では、引き続きアウトソーシング案件の取引拡大に注力するとともに、受注案件ごとの採算性向上に努めた結果、売上高、利益面ともに伸ばいたしました。

国内のIT投資は、今後も緩やかな成長が続くものと想定されます。当社は引き続き技術者の育成に注力するとともに、上流工程への移行とアウトソーシング案件の拡大によるサービスそのものの高付加価値化を進めてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

田中博



Q1 景気の足踏みも見られますが、旭情報サービスの業績は順調のようですね？

A1 企業のIT投資意欲に衰えは見られません。投資を見送れば、やがて競争力で後れを取るという危機感が背景にあります。クラウドへの対応は、自社内で完結していた従来型コンピュータネットワークを、外部のネットワークと連携させることで費用を少なくし、使い勝手もよくなるという次世代型への移行過程を示しています。“攻め”のIT投資と言えます。一方、セキュリティ確保への対策は、悪意のある外部からの侵入などから自社のネットワークを防護するもので、既存ビジネスの“守り”につながる投資です。当社の主要な3事業においては、ネットワークサービスが全体をけん引し、システム開発も着実に伸びています。旧来の大型コンピュータの維持・管理を行うシステム運用は縮小の方向ですが、こちらも根強い需要があります。

Q2 お客様には大手メーカー、商社、シンクタンクなどもあります。今後のIT戦略に深く関わる立場ですが？

A2 最近IoT（モノのインターネット）に関心が高まっています。インターネットにセンサーやモニターなどをつないで、離れた場所にある“モノ”の状態を把握したり、“モノ”を操作します。工場や物流現場の最適稼働に加え、農産物の生産・加工にまで活用が広がる勢いです。新たな競争力を呼び込む手段として、急速に広がることが期待されています。一方で、お客さまからは、IoTに限らず生産性の向上に結び付く新しい提案をしてほしいという依頼が寄せられています。一歩先行く提案と高品質のサービスを提供し続けなければと考えているところです。お客さまの信頼は、こうしたひとつひとつの積み重ねによって培われていくのです。

Q3 中期経営方針でプロフェッショナル人材の育成を掲げています。ITを担うのは人間力ということでしょうか？

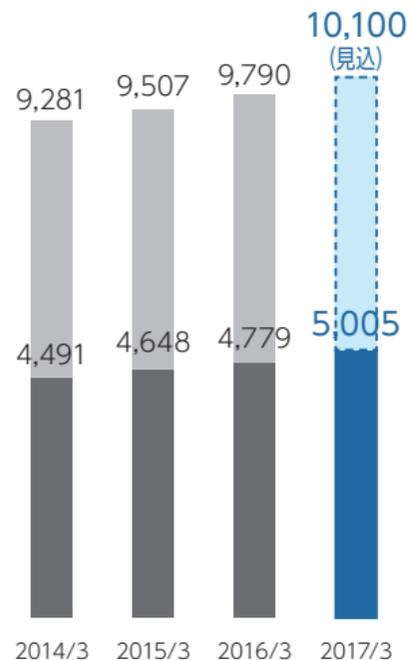
A3 私どもの仕事は、情報通信技術に関連した機器やソフトウェア、システム、サービスなどをその企業にもっともふさわしい形で提供することにあります。ただし、こうしたビジネスも最後は“人間対人間”が基本となります。社員一人ひとりの成長をうながし、個々のサービスの付加価値を高める以外に旭情報サービス自身の成長も生まれません。私どもには、3年後までに売上高で108億円、営業利益で9億円に寄せたいという中期目標があります。これらの目標に迫るためには、①派遣型から一括請負型への転換、②オペレーションからコンサルティングの上流工程への移行、③お客さまとの直接取引の拡大——などの施策を強めていかなければいけません。それにはお客さまから仕事を任せてもらい、成果につなげて信頼を勝ち取ることが重要になります。いずれにしろ社員一人ひとりの力を伸ばしていかなければなりません。

Q4 株主の皆さまとの信頼構築も大切です。一言メッセージをお願いします。

A4 当社の株主さまの約98%は個人投資家の方々です。毎年の株主総会の後に株主懇談会を行い、皆さまと親しく言葉を交わすようになりました。その中で、当社が通常の配当に加えて行っているカタログギフトによる株主優待が大変好評だというお声を頂戴しています。こうしたものも換算すると当社の配当性向は40%を超え、年利で3.4%の利率に相当します。平成30年10月までに、上場株式の投資単位は100株に統一となりますので、当社においても投資単位の引下げについても検討を進めております。投資単位を1,000株から100株にすると株主さまの数も増えることが予想され、株主懇談会や優待のあり方についても見直しをせざるを得ないと考えています。当社の大切なパートナーである株主さまのご理解をよろしくお願い申し上げます。当社は東証一部への指定替えを目指してまいります。今後とも株主の皆さまのご支援を心よりお願い申し上げます。

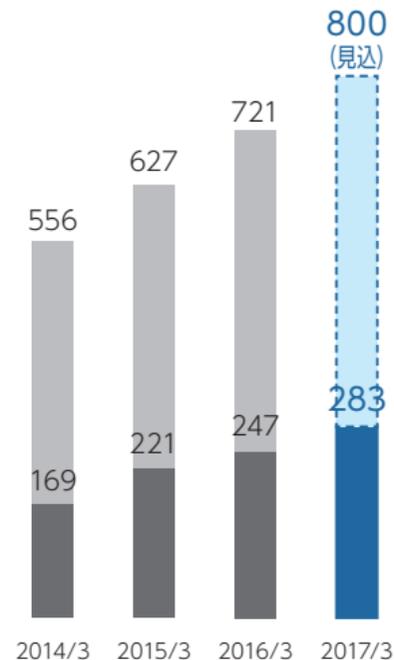
売上高

単位：百万円 下段：第2四半期 上段：期末



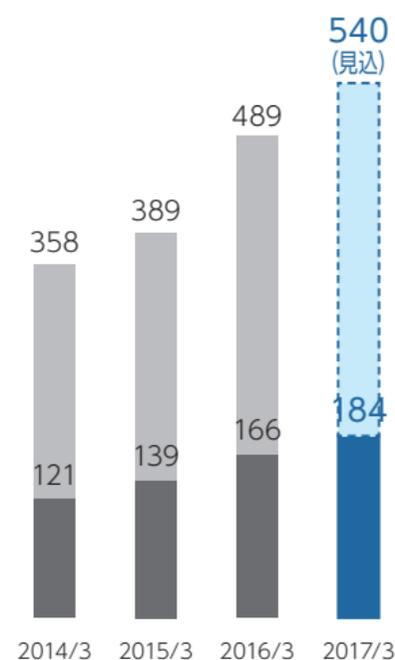
経常利益

単位：百万円 下段：第2四半期 上段：期末



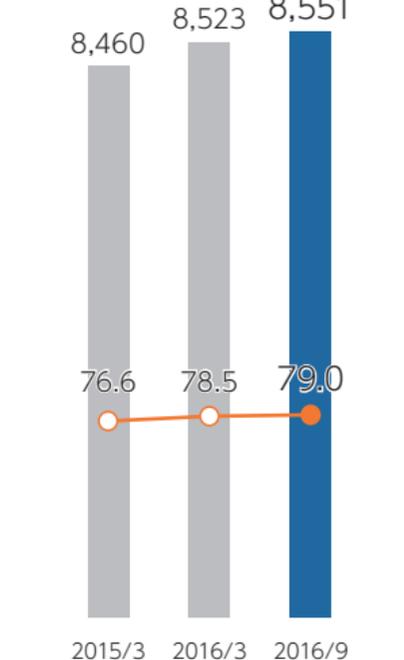
四半期(当期)純利益

単位：百万円 下段：第2四半期 上段：期末

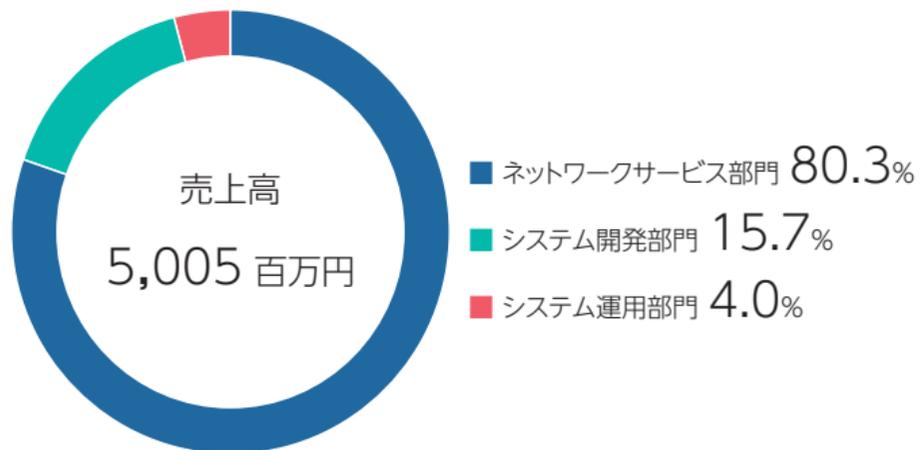


総資産 / 純資産比率

単位：百万円 ○ 純資産比率



■ 売上高構成比率



ネットワークサービス部門

アウトソーシング案件の取引拡大を図るとともに、受注単価の向上に努めた結果、売上高は4,020百万円（前年同期比4.0%増）となりました。

システム開発部門

組込み系ソフト開発における検証業務が減少したものの、業務系アプリケーション等の案件獲得に努め技術者投入を推進した結果、売上高は785百万円（前年同期比11.0%増）となりました。

システム運用部門

汎用系の運用やオペレーション業務は、市場の縮小とともに価格下落が継続していることから、汎用系技術からネットワーク系技術への移行に継続して取り組んだ結果、売上高は199百万円（前年同期比3.3%減）となりました。

■ 配当金の推移

単位：円

■ 中間 ■ 期末



(参考)

1株あたり
当期純利益

2013/3	34.0円	46.1円	50.1円	62.9円	—
--------	-------	-------	-------	-------	---

配当金についての考え方

当社は、株主の皆さまに対する利益還元を経営上の重要課題の一つとしており、経営基盤の強化と長期的な収益の向上を維持するとともに、配当につきましては安定的かつ継続的に行うことを基本方針としております。

当期の中間配当は、この基本方針に基づき、1株につき15.0円とさせていただきます。また、期末配当は1株につき15.0円（年30.0円）を予定しております。

今後も株主の皆さまのご期待に添うよう株主還元に努めてまいります。

■ 会社概要

商号	旭情報サービス株式会社 ASAHI INTELLIGENCE SERVICE CO.,LTD.
設立	昭和37年8月7日
資本金	7億3,336万円
従業員数	1,480名
主な事業内容	当社は、ネットワークシステムの構築、運用管理をはじめヘルプデスクや障害対応などのサポート業務、およびソフトウェアの設計・開発業務を主力とするほか、汎用系システムの保守・運用管理などの情報処理サービスを行っております。

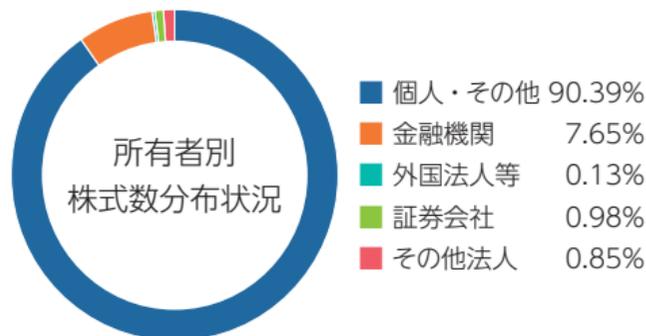
■ 役員

代表取締役社長	田中 博
常務取締役	高橋 範年
取締役	濱田 広徳
取締役	英保 吉弘
取締役	宮下 勇人
取締役	水野 伸一
取締役(社外)	岩田 守弘
常勤監査役(社外)	松尾 良輔
監査役(社外)	三浦 州夫
監査役	河村 雄良
監査役(社外)	清水万里夫

■ 株式の状況

発行可能株式総数	20,729,000株
発行済株式の総数	8,264,850株
株主数	3,180名

■ 株式分布状況



■ 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
旭情報サービス社員持株会	1,029,192	12.45
大槻幸子	420,520	5.09
三井住友信託銀行株式会社	374,000	4.53
小野一夫	174,000	2.11
大槻武史	159,300	1.93
日本生命保険相互会社	157,020	1.90
平野民藏	150,000	1.81
大槻剛康	140,930	1.71
大槻幸史	136,200	1.65
大槻広子	97,900	1.18

(注)持株比率は自己株式(485,824株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月に開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	 0120-782-031
インターネットホームページURL	http://www.smtb.jp/personal/agency/
公告方法	電子公告により当社ホームページに掲載いたします。 ただし、やむを得ない事由により電子公告できない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 ※公告掲載の当社ホームページアドレス http://www.aiskk.co.jp/
上場証券取引所	東京証券取引所

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

● 証券会社に口座をお持ちの株主様

お取引の証券会社にお問合せください

● 証券会社に口座をお持ちでない株主様

左記電話照会先にお問合せください

● 特別口座の株主様

株券電子化以前に「ほふり」を利用されていなかった株主様

三井住友信託銀行株式会社
証券代行部

株主懇談会について

当社は、株主の皆さまに当社の現状および今後の事業展開についてご説明し、オープンな意見交換ができるようにと、定時株主総会終了後に株主懇談会を開催しております。株主懇談会で頂戴しました多くのご意見・ご要望を今後の経営に生かし、株主の皆さまのご支援にお応えしていく所存です。

株主優待制度のご案内

株主の皆さまのご支援に感謝し、毎年、年1回の株主優待を実施しております。

贈呈
基準

毎年3月31日現在で、**1,000**株以上お持ちの株主様

優待
内容

「カタログギフト」5,000円コース

地球環境や社会貢献に配慮したモノやサービスを多数掲載。
ご希望商品1点をお選びいただけます。

ASAHI INTELLIGENCE SERVICE

AIS

旭情報サービス株式会社

〒100-0005

東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー11F

<http://www.aiskk.co.jp>



環境に配慮した植物油インキを使用しています。

**UD
FONT**

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

